

平成28年度福島県生涯学習審議会議事録

1 日 時 平成29年2月14日(火) 10:00～11:50

2 場 所 福島テルサ あづま

3 出席者 別紙名簿のとおり

4 議 事

- (1) 会長、副会長の選任について
- (2) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について
- (3) 指標の見直しについて
- (4) その他

5 内 容

- (1) 開会 (司会 石田生涯学習副課長)
- (2) 挨拶 安齋文化スポーツ局長
- (3) 定足数確認

事務局より、福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により、委員は15名であり14名の出席、定足数(過半数)が出席し、審議会が成立することを報告。

- (4) 会長、副会長の選任について

福島県生涯学習審議会条例第4条第1項の規定により、委員の互選により会長、副会長を選出。

会長 福島大学副学長 千葉 悦子 氏

副会長 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 常勤副会長 鈴木 千賀子 氏

- (5) 議事録署名人選出

議長の指名により、佐々木吉晴氏、久保美由紀氏が選任された。

- (6) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

事務局(吉成生涯学習課長)より、

- ① 福島県生涯学習基本計画について
  - ② 平成28年度福島県生涯学習の実施状況について
  - ③ 指標の進捗状況について
  - ④ 平成29年度福島県生涯学習事業計画について
- 上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。

【澤田委員】

「インターンシップ実施校の割合」において平成27年度の目標値が71.3%、実績値が63.2%であり、目標に達していない。その理由について、原因や理由をお聞かせ願いたい。

【高校教育課】

インターンシップ実施校の割合は、震災前は75%近くあり全国平均よりも高い水準であったが、震災後サテライト校などのために実施校が減少している。福島県は普通高校のインターンシップの実施率が低いという問題点が指摘されており、普通高校、特に進学校でのインターンシップをいかに実施していくかが課題となっている。

地域医療を担う人材が不足していることから、平成28年度より病院等医療機関

で勤務等を希望する生徒に対して就業体験を行う事業を実施している。平成29年に公表される平成28年度の実施率は、上昇の予定である。

【成田委員】

平成29年度予定の「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」において増額しているが、その理由をお聞かせ願いたい。

【社会教育課】

平成28年度、この事業に38団体が採択された。来年度は参加団体を倍くらいに増やしたい。特に高校生の頑張りを県内外に発信していきたいと考えている。先日も福島市内において高校生の活躍を発表する場があり、マスコミにも取り上げていただいた。更に充実を図りたい。

【久保委員】

県民カレッジ推進事業の参加者数は実人数なのか、延べ人数なのか。また、消費生活出前講座の対象はだれか。小さい子どもを対象とした講座があれば紹介していただきたい。最後に離職者等再就職訓練事業では、就職率は出ているが、定着率は分かるのか。

【事務局】

県民カレッジの受講者数は、各市町村で行われている講座に参加した人数であり、講座ごとで言えば実人数である。

【消費生活課】

出前講座は昨年12月までに21回実施しており、うち16回は高齢者が対象だった。若年層への講座は、中・高生等向けの出前講座を5回実施したほか、教員向けの出前講座を案内している。

【産業人材課】

離職者等再就職訓練事業の修了者の定着率は把握していない。

【鈴木委員】

アーカイブ拠点施設関連について3点お聞きしたい。

- ① 社会教育課で実施している東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業との関連はあるのか。
- ② 県内外で様々な主体が震災に関わる資料の収集をしているが、アーカイブ施設では、どのように他団体との連携を図ったり、提供をしったりするのか。
- ③ 貴重な教訓、資料の収集を行うが、整理を行い、中身の研究が必要なのではないか。

【事務局】

- ① 当課と社会教育課の東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業との関連はない。
- ② 資料収集については、来年度以降本格的に実施し、整理していく。例えば県外であれば、双葉町の避難所の状況を筑波大の先生が調査していることも聞いているので連携してまいりたい。また、NPO法人の活動記録も貴重な資料であることから広く提供を呼びかけていきたい。
- ③ 基本構想の検討の中で、調査研究事業を柱の1つとして位置づけている。集めた資料については「生かす」取組をしていく予定である。

【今野委員】

「ジャーナリストスクール開催事業」では、参加者の募集はどのように行われているのか。また、次年度は、どこで開催する予定か。

【事務局】

ポスターとチラシを作成し、各市町村教育委員会を通して、県内の各学校へ配付している。

次年度は現在、予算審議中ではあるが、議決されれば「いわき地区」で実施したいと考えている。

【大原委員】

「ジャーナリスト新聞」はどのくらいの部数を印刷し、どこに配付したのか。

【事務局】

全部で7万部印刷し、新聞を使って教育を行っている NIE 参加校12校には全児童生徒分を、また、県内の各学校には20部ずつ配付した。復興を伝えるために県内外に避難している方には、避難者支援課を通して「ジャーナリストスクール新聞」を配付した。

【湯野尻委員】

民俗芸能継承について県で考えている地域の説明会や公演事業（ふるさとの祭り）も一つの方策だと思うが、もっと地域住民の懐に入っていくような方策が必要ではないか。

地域に目を向けて、悩んでいる人たちの声を汲み取るような方策を考えていただきたい。

【文化振興課】

民俗芸能復興サポート事業では、各団体の地域の実情に応じて支援をしている。地区説明会時には、個別に相談を受け、支援策や助成金の案内、復興を果たした事例の紹介等も行っている。また、それぞれの地域の民俗芸能保存団体に直接専門家が出向いて、実情を聞いてアドバイスをしたり、次のリーダーを担う人材育成研修会等も開催している。また、意見交換等も行うなど、横の連携、団体間のネットワークの形成などもこのサポート事業の一環として行っている。

【湯野尻委員】

そのような支援を行っているということが伝わってきていない。もっと周知を図るべきではないか。

【文化振興課】

各市町村の文化担当者の方に集まっていただいて説明会を実施している。熱心に民俗芸能復活に向けて取り組んでいる市町村もあるが、そうでないところもある。地域によって温度差があるので、今後市町村への働きかけを強めていきたい。

【樫村委員】

指標の目標値はどのように設定しているのか。

【事務局】

各指標ごとに担当課で目標値を定めている。施策の推進を図るという意味もあるので、高めに設定をしている。

【樫村委員】

毎年、指標を考えているのか。また、来年も指標が替わる可能性があるのか。

【中尾根委員】

現在の指標、目標値というのは平成25年度、基本計画の策定時に作成された。この審議会のこの場で、目標値の決定をしたのではないか。月日経っており、現状と合わない指標がある。

【事務局】

何を指標に定めるのか、数値目標をどのようにするのかというのはこの審議会で語り、決定していく。指標については年月の経過と共に状況が変わるので、「指標の見直し」をしていく必要がある。

【澤田委員】

「アクアマリンふくしま」の入館者数が、減っているが、入館者増加に向けての方策はあるのか。

【事務局】

「アクアマリンふくしま」では「わくわく里山縄文の里」を新たにオープンし、魅力の向上につながる対策をしている。また、平成30年には「世界水族館会議」の開催予定。アクアマリンふくしまでの研究、成果発表などを行い、来館者数増加につなげていきたい。

(7) 指標の見直しについて

【事務局】

- ① 「県民カレッジ受講者数」目標値を上方修正したい。

平成27年度と同等の水準を保っていく。

目標値を上方修正し、新たに110,000人を目標とする。

- ② 「生涯学習指導者登録数」の廃止

指標の基となっていた「まなびとファインダー」が終了。県民の多様なニーズや学習活動の広域化に対応するために、生涯学習課で運営をしていた情報検索システムだが、平成27年度に事業を終了。

「生涯学習指導者登録者数」はこの「まなびとファインダー」を使って登録数をカウントしていた。終了に伴い調べる手段がなくなった。

- ③ 「『夢まなびと』にアクセス数」の廃止

「まなびとファインダー」を使っていたが、この「まなびとファインダー」が終了。指標の把握も難しい。

【各委員】

- ① 「県民カレッジ受講者数」目標値を上方修正

- ② 「生涯学習指導者登録数」の廃止

- ③ 「『夢まなびと』にアクセス数」の廃止

上記の事務局案3件を承認する。

【樫村委員】

「福島県芸術祭参加行事数」は高額な予算が付いているが、国の復興予算、補助金が付かなくなると行事数が減ってくることが予想されるが、この指標はこのままでも支障はないのか。


【文化振興課】


「芸術祭参加行事数」が増えている要因はいろいろとある。市町村や各団体に働きかけていくことにより、認知度が上がり、参加してくる行事が増えている。その要因や今後の参加の見込みなどを十分に考え、これから開催される文化振興審議会で検討したい。

(8) 閉会

以上 議事録に相違ないことを証する。

平成29年3月17日

議事録署名人 佐々木吉晴 

議事録署名人 久保美由紀 

## 平成28年度福島県生涯学習審議会 出席者名簿

日時：平成29年2月14日（火）10:00～11:50

会場：福島テルサ あづま

### ■福島県生涯学習審議会委員

（五十音順）

役職	氏名	役職	出欠
委員	おおはら なおこ 大原 尚子	福島県女性団体連絡協議会 警青の会 監事	出
委員	かむら げいし 樫村 重慶	福島テレビ エンタープライズ 代表取締役社長	出
委員	くぼ みゆき 久保 美由紀	会津大学短期大学部 幼児教育学科 准教授	出
委員	こんの としこ 今野 登志子	白河市社会教育委員（公募）	出
委員	さいとう きみこ 斎藤 公子	福島県レクリエーション協会 事務局次長	欠
委員	ささき よしはる 佐々木 吉晴	いわき市立美術館長	出
委員	さわだ かつひこ 澤田 勝彦	株式会社 SAWATA 代表取締役（公募）	出
副会長	すずき ちかこ 鈴木 千賀子	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会 常勤副会長	出
会長	ちば えつこ 千葉 悦子	福島大学副学長	出
委員	なかおね やすひろ 中尾根 康宏	日本銀行福島支店長	出
委員	なりた ひでき 成田 英樹	公益社団法人日本青年会議所 東北地区福島ブロック協議会 2017年度 会長	出
委員	ほりがね やすし 堀金 靖	福島県公民館連絡協議会長	出
委員	みずしまかつのり 水嶋 克典	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構福島職業訓練支援センター訓練課長	出
委員	めぐろ ひろき 目黒 博樹	NPO法人みらいと 理事長	出
委員	ゆのじり つよし 湯野尻 強	NPO法人うつくしまスポーツルーターズ 理事長	出

### ■事務局

氏名	役職
安齋 睦男	企画調整部 文化スポーツ局長
阿部 雅人	企画調整部 文化スポーツ局次長
吉成 宣子	企画調整部 文化スポーツ局 生涯学習課長
石田 弘枝	企画調整部 文化スポーツ局 生涯学習課 副課長兼主任主査